

創立70周年記念号



早岐田子ノ浦をヒューマンの暖かい波動が感じられる場所へ

ヒューマニティーパーク 完成！

ヒューマングループは2023年1月15日に創立70周年を迎え、その記念事業として本社のある早岐田子ノ浦の土地開発を行いました。
土地開発により、国道から社屋と自動車学校のコースがよく見えるようになり、早岐田子ノ浦が“ヒューマングループの玄関”として新しく生まれ変わっています。
シンプルながらも温もりを感じる木造の建物と季節によって表情を変える植栽。
暖かい波動を感じる場所にぜひ訪れてみてください。

目次

ヒューマニティーパーク完成！ 1

ヒューマンスクール早岐通信 2

ペーパーレス化に伴う新たな原簿
管理運営優良校の表彰を受けました

ヒューマンスクール松浦通信 3

オンデマンド学科への挑戦

ヒューマンバス・ヒューマントラベル通信 4

ドライバーの推しスポット紹介！

リユース通信 5

国家資格キャリアコンサルタントの取得

ヒューマントーク 39 6

世界を元気にするイノベーション

世界元氣塾 塾長 米倉 誠一郎様

ヒューマントーク 40 10

建物に込めたヒューマニティーへの想い
福永博建築研究所

所長 福永 博 様

福永 晶子様

ヒューマンポエム 14

KAZコラム 50 14

世界元氣塾

ヒューマングループ

代表 内海 和憲



ヒューマンスクール
早岐 通信

ペーパーレス化に伴う新たな原簿

ヒューマンスクール早岐では、2023年10月に紙の教習原簿からデジタル原簿へと移行しました。今回、その移行プロジェクトに携わった中村教頭に移行までの道のりを伺いました。

今年10月にヒューマンスクール早岐は、これまで紙だった教習原簿をアプリへとデジタル化しました。これにより、教習後原簿に必要な項目を手書き・押印、という流れが当たり前だった業務が、IT機器を使った入力・管理へと変わりました。

今回私は、このデジタル化プロジェクトに携わることができ、色んな事を学びました。まずは私が移行に伴うメリット・デメリットを理解することです。そして、デメリットをどうやって補うかを考えることが必要でした。情報を整理していくと、紙の原簿にも良いところが多くあったことに気付かされました。

そして新しいシステムがスムーズに、お客様やスタッフに浸透するための準備の大変さです。お客様には、以前から入校時にお配りしていた『教習の手引き』のバージョンアップや、システム移行やアプリのご案内をLINEでお送りするなどの取り組みを行いました。

指導員には、申し送りやデジタル原簿における確認方法、フロントスタッフには入校時の説明や登録方法の理解など、蓋をあけてみると見えてくる課題もたくさんありました。ITにも得意、不得意がありますので、理解度もバラバラ。それを統一させることの難しさを改めて痛感することができました。

皆嫌な顔せず、積極的に取り組んでいただき、色んな意見も出していただくことができたこと。困っている人がいれば手を差し伸べてくれる方々ばかりがいるこの環境に感謝します。

ヒューマンスクール早岐 教頭 中村 元



紙の原簿

管理運営優良校の表彰を受けました

5月に開催された令和5年度 長崎県指定自動車学校協会の定時総会にて、ヒューマンスクール早岐が管理運営優良校として長崎県警察本部長・学校協会 会長連名の表彰状を授与していただきました。

当校のほか、長崎県内で17校ある自動車学校の中から、優秀校が1校、優良校が2校選ばれました。表彰基準に照らし合わせると、学校の管理体制をはじめ施設の設備、各種検査結果、毎月作成される文書の管理等が適正に行われていたことが今回の評価された部分だと思います。

今回表彰状をいただいたことにより、『優良校から優秀校へ!』という次の目標が示されたと感じます。目標達成のために日頃からの正確かつコツコツと丁寧な業務と、学科試験の合格率や法定講習で全員優秀であることなど、何か突出したものが必要だと思います。

そのためにも、ヒューマングループの今年の行動テーマである『自問自答』で、常に自身が考え、そして行動できるよう、早岐校一丸となっていきます。

目標に向かって進むことが、経営理念である『ヒューマンで人々を幸せに』に繋がるものと確信いたします。

ヒューマンスクール早岐 校長 松瀬 謙司





ヒューマンスクール
松浦 通信

オンデマンド学科への挑戦

遠隔でリアルタイムの授業を受けられるオンライン学科から、お客様が24時間いつでも授業が受けられる『オンデマンド学科』へ。変革に向けての様子を坂本検定員に伺いました。

ヒューマンスクール松浦では、2021年5月よりオンライン学科を実施しております。

松浦校には、遠くは片道約1時間半の場所から来て頂いているお客様もいらっしゃいますので、オンライン学科は大変好評を頂いておりました。

2022年1月から一足先にオンデマンド学科を開始したヒューマンスクール早岐に続き、2023年6月からオンデマンド学科の作成に取り掛かりました。私は2023年5月までの約2年間、早岐校に転属しておりましたので実際のオンデマンド学科の撮影を経験させて頂きました。そして、動画の編集作業の方法も、松浦校に戻ってくる前に一通り教わりました。

しかし、私を含めITにはあまり強いとは言えないメンバーでの作成開始。スタッフの数は少人数、なかなか簡単にはいかず、苦労する事も多々ありました。



撮影に関しては、カメラを向けられている前での教習にほとんどのスタッフが慣れておらず、緊張のため表情が固かったり、上手く喋れず噛んでしまうことや、台本を読もうとカメラから視線が外れる、声が小さくなる、時間配分が上手くいかなかったり等々、課題が多くありました。編集に関しては、編集ソフトに慣れるところから始まり、道路交通法の法改正に伴うデータの改定、学科時間50分びつたりに合わせての調整等、課題がありました。

それでも、早岐校に先陣を切って下地を築いて頂き、そのノウハウを伝授してもらうことで、なんとか頑張って作成することができました。我々だけでは手に負えない部分は企画スタッフの方々にもフォローして頂きながら、周りの皆様に助けていただき、11月には第一段階、12月には第二段階のオンデマンド配信をスタートすることができました。

オンデマンド学科では、24時間いつでもどこからでも学科教習を受講できます。松浦校のお客様がさらに便利に教習を受けていただける環境を整えることができました。

ヒューマンスクール松浦 検定員 坂本 一也



指導員によって声の大きさ・話すスピードなどが違うので、マイクを準備して音量を調節するよう工夫しました。早岐校で作成されたデータを活用しての制作でしたので、動画を切り取ったり繋いだりと、慣れない作業が大変でした。

検定員 川淵 信介



最初は表情も固く、噛んでしまうなど、なかなか上手いきませんでした。今では徐々に慣れてきて表情も柔らかくなったと思います。初めての編集でしたが、完成した映像を見た時は達成感があり嬉しかったです。

指導員 一丸 貴文



ヒューマンバス
ヒューマントラベル
通信

ドライバーの“押し”スポット紹介!

コロナ禍から少しずつ動き出した観光業界!そろそろ旅行に行きませんか?今回は皆様にぜひ訪れていただきたい“押し”スポットをヒューマンバスドライバーがご紹介します。

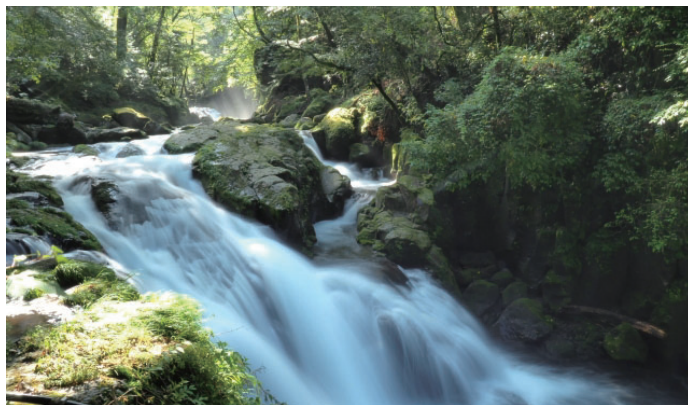
辻川・中野ドライバーイチ押し!

私たちの押しスポットは**大分県湯布院**です。シンボルである由布岳を眺めながら街並みを散策。そして美味しいものを見つけては立ち寄って舌鼓。また、馬車や人力車で一味違った風を感じることできます。

できれば日帰りではなく**現地の旅館やホテルで一泊されるのがおすすめ**です。露天風呂から見る由布岳は別格。お値段的には少し高く感じられるかもしれませんが、豊後牛のお料理やおもてなしの心がこもったサービスがとても良いです。

紅葉が色づく**金鱗湖**、由布岳の**雪化粧**など皆さまの楽しみ方を見つけてください。

旅の帰りには、サービスエリアに立ち寄って、メロンパンやアイスを楽しめるのもバス旅行の醍醐味です。



大野ドライバーイチ押し!

私の押しスポットは、**熊本県の菊池渓谷**です。車で佐世保駅前から片道2時間30分。森林浴とマイナスイオンを十分に楽しめ、秋には溪流と紅葉のコントラストを楽しむことができます。また、食事は菊池渓谷から車で40分の**あか牛井専門店**がおすすめです。名物『あか牛井』のほか、だご汁や高菜めしなど美味しい阿蘇の郷土料理を味わうことができます。

中村ドライバーイチ押し!

私の押しスポットは、**音浴博物館**です。廃校舎を利用した施設で今のデジタルの時代にアナログのものを集めた場所です。

福山雅治さんの**幻のデビューシングル“レコード”**が展示されています。懐かしのレコードがたくさんあり、今ではレアな蓄音機もあります。佐世保駅前から車で片道1時間、素敵な時間を過ごせるスポットです。

また、音浴博物館から車で約30分のところにある、持木荘併設の“ノード”の窯焼きピザは絶品。ぜひお試しください。



さあ、どこかへお出かけしてみませんか?

貸切バスやご旅行の手配は“やっぱり”ヒューマンまで!!





国家資格キャリアコンサルタントの取得

弊社では本年、2つの国の委託事業を受ける機会を得ました。

その中で「キャリアコンサルタント」という資格があることを知りました。この資格は、弊社が提供する強みを活かすためのコーチングサービスと共通する要素が多く、チャレンジすることにしました。

資格取得のためにオンラインで提供される養成講座に参加しました。3ヶ月間、10日間の講習を受けました。資格試験は選択式の筆記試験、論述試験、そして実務（カウンセリング）です。指導員の皆さんの審査前の気持ちがわかるなあと思いつながり、合間に勉強をし7月の試験でなんとか合格することができました。

今回の経験を通じて多くの新しい知識を得ることができ、私自身の成長にも繋がりました。人生100年時代と言われる現在、多様性の時代の中で一人一人の仕事に対する価値観は大きく変化しており、キャリアコンサルタントの役割はますます重要になっています。

自社内においては、スタッフ一人ひとりのキャリアプランの支援を行い、自分らしいキャリアを築けるような環境を構築していきます。また、今でも社長や私が行っている地域の小、中、高、大学での講演活動や、自動車学校に来ていただいているお客様への情報提供をしていき、学生たちのキャリアプラン作成にも積極的に関わっていきます。ヒューマングループでは、「Working with Joy」をキーワードに、仕事もプライベートも楽しんで欲しいと思っています。

キャリアコンサルタントとしての知識を活かし、企業や地域社会において、多様なキャリア形成の支援を行うことで、人々が自分らしい生き方を実現するための地域の情報発信の場となっていきます。

デジタルを活用した生産性の向上と、コーチングを活用した強みを活かす組織づくり。自動車教習所から事業を興したヒューマングループですが、この両輪で社名の通り「人」が生き活きと自分らしい生き方をするためのお手伝いができる存在を目指します。

専務取締役 内海 梨恵子



社長の講演様子



専務の講演様子

ヒューマングループ 事業紹介

- ・LINE公式アカウント構築・運用支援
- ・中小企業向け 社内システム構築支援
- ・SDGsコンサルティング事業
- ・人材育成事業（コーチング・MG研修・社員研修）
- ・公共事業委託業務



世界を元気にするイノベーション

創立 70 周年記念号ヒューマントーク第一弾は、一橋大学名誉教授・法政大学大学院教授であり、世界元気塾の塾長 米倉 誠一郎様に登場していただきました。米倉様のこれまでの経歴やヒューマングループの取り組むイノベーションについてお話を伺いました。

内海力： 米倉先生の著書を読み、今年は世界元気塾に参加し、刺激を受けてきました。まずは先生のこれまでのヒストリーを教えてください。

米 倉： 僕は東京の新宿区生まれで、子供の時は多動症で授業中は全然座っていませんでした。

人生が面白くて！鳥が飛んでも面白い。それで小学校の時に担任の先生が怒って家に来たんです。母にいかにも僕がダメかと言って帰ると、母は僕に「お前の先生は分かってないね」って言ってくれました。自己肯定感はとても大事で、そのおかげで僕はこのまま生きればいいんだと思い、自由に生きてきました。

悪ガキでしたが、勉強できないとカッコ悪いので、一橋大学に進学しました。一時は「働きたくないなあ」と海外でヒッピーみたいな暮らしをしていました。

同級生につられて就活もしてみても、銀行の内定を頂いたけど、考え直してまた学士入学をしました。「人に教えるのが好きだな」と思い大学院に進学しました。大学院では、マルクス経済学や、幕末のことなどを学び、そのあと助手として採用されました。

入社 3 ヶ月目頃に、同期採用された野中郁次郎先生からアメリカに行ったらどう？と言われ、それを真に受け、留学を所長にお願いしました。当時、アメリカの博士号は簡単だと聞いていましたが、実際は本当に大変でしたね。1年間の授業料は1,000万円でした。私の初任給は13万3,000円ですよ。それを面接で伝えると、かわいそうだから、と生活費として3,000ドルをつけてくれました。1,000万の授業料はとても払えないので、奨学金をうけるために日本語がペラペラだという先生に会いに行きました。

アポイントを取ると、「6時にパレスホテルに来なさい」と言われたので、「6時には仕事は終わりません」と伝えると「朝の6時だよ」と言われました。アメリカでは「ブレイクファストミーティング」があるなんて知らなくてびっくりしました。日本語で面接の準備をしていったら、面接はまさかの英語。今考えると当然だと思いますが、とても恥ずかしかったです。先生から、「お荷物になるだけだよ」と言われたのに、その意味も分からず、「Thank you very much.」なんて答えていましたね。



締め切りまでの3ヶ月間、一生懸命勉強しました。TOEFLで最低700点は必要だったところ、私は400点くらいでした。それで頑張って700点まで上げました。すると試験官が3か月で300点上げたのは君が初めてだと言ってきて、無事アメリカのハーバード大学に留学することができました。アルフレッドチャンドラー先生という素晴らしい先生のもとで勉強しましたが、あの時が一番勉強しました。

83年にアメリカに行って90年に博士号を取りました。その間、アメリカにいたのは初めての3年間だけで、あとは日本で教鞭を取りながら、夏休みと冬休みに向こうに戻りながら論文を書いていました。

当時の僕は日本企業がアメリカ企業に負けるとは思っていませんでした。

素晴らしいチームワーク、一人一人の能力の高さ、絶対に日本は強いと思っていました。そんな時、「シリコンバレーに行け」と言われ、僕の人生観が変わりました。Tシャツに短パンで楽しそうに働いていて、壮大な構想を話す青年と会ったときに「失敗したらどうするんだ？」と聞くと「失敗？したよ、もう3回」と言われて、目から鱗が落ちました。これは、全く違うゲームが始まっている！と。

そこから三木谷君や孫さん、藤田君の応援を始めて僕はベンチャーおじさんになりました。一橋大学の定年の前に、原点に戻って恩返しのお気持ちも込めて書いた本が『イノベーターたちの日本史』です。

米 倉： 塾を始めるきっかけはアカデミーヒルズです。

森ビルの創業者 森泰吉郎さんは一橋大学の卒業生で 52 歳まで教授をされていました。だから学校を作りたいというのがあったと思います。そこから今の森ビルはスタートしました。

アカデミーヒルズの 3 代目の塾長を務め、その延長で「日本元気塾」を提案して塾はスタートしました。ソーシャルビジネスに興味をもったきっかけは、2009 年にバングラデシュのユヌス総裁にアカデミーヒルズで会ったことです。ユヌス総裁は 2006 年にノーベル平和賞を受賞しましたが、その時のバングラデシュは最貧国でした。世界中が何兆円とかけても解決しなかった貧困という問題に取り組んだ人です。ユヌス総裁は一人ひとりに数万円という少額の融資（マイクロファイナンス）をして、ビジネスをさせることで、国が蘇ることを目の前で見せられました。バングラデシュの農民の年収は 3 万円です。それを担保も取らずに融資するマイクロファイナンス。29 人 42 ドルからスタートして、今では 1 兆円、800 万人の預金者までに成長しました。

こんなソーシャルイノベーションを教える学校をやりたいと思い、三菱地所と一緒に取り組むことになったのがソーシャル・イノベーション・スクールです。一方で日本元気塾は、留学生から「日本だけですか？」とか言われ「世界元気塾」への名称変更して、そこに内海さんが参加してくれて、出会いがありました。

内海力： 世界元気塾に参加して、世界からみた日本を知ることができました。

きっちりとした切り口での経営の学びがあり、それに加えて経営者の熱い想いをライブで聞くことができました。今の現役の経営者ももっとこういう話を聞いて、「よし、もっと儲けよう」と思わなくてはいけないと思いました。今はなかなか儲けるという言葉を使わないですよね。でも、塾のもう一人の講師である楠木先生は「もっと 2 倍、3 倍儲けよう。儲けることは私利私欲じゃなく本当に社会のために必要なことだ」とおっしゃっていましたね。

米 倉： 本当にそうですね。企業の一番大事な目的は利益を上げるということです。利益を上げれば、給料も高く払うことができるし、税金も納められる。でも、利益を上げることは簡単じゃない。

もっと工夫を重ねて、イノベーションを起こさなければ利益はあがらないですからね。そのことをもっと真剣に経営者は学ばなくてはいけないと思います。そして同じビジネスという手法を使って社会の問題も解決できるというのをユヌス総裁が見せてくれました。だからイノベーションスクールでは両方やらないといけないと思って進めていますね。

内海力： 学びを振り返ると楠木先生が言われた「Better ではなく Different だ」ということがすごく響きました。これまで私がやってきたことは、全部 Better を目指していました。

しかし、弊社の 3 代目は Difference にチャレンジしているというのがわかったので、「ヒューマングループは伸びるぞ！」と私に元気を与えてくれました。

ここでちょっとうちの専務が今何をやっているのかを聞いて頂きたいと思います。

米 倉： いま、どういう方向にヒューマングループは行かれているのですか？

内海力： 私はなぜ「ヒューマングループ」という社名なのか、その意味をずっと考えてきました。

米 倉： ヒューマングループという名前はいつ頃つけたのですか？

内海力： 2004 年に名称を変更しました。それまでは株式会社佐世保交通産業という名前でした。

米 倉： おー、昭和の匂いがしますね（笑）。

内海力： はい、そうなんです。創業者である父はどんな思いでこの会社を始めたのか、想いの部分を聞くことができずに父は亡くなったので、色々と過去を調べました。すると 1962 年に障がい者のために教習をするボランティアを日本の民間では最初に取り組んでいました。

創業間もない、昭和 30 年代は会社も利益がない時代だったと思います。ボランティアという言葉もないような時代にそんなことをやっていたことを日本国立身体障がい者センターが取材に来られた時に知りました。それまで父とはケンカばかりしていたけれど、すごく人間愛のある経営者だったんだと。父が亡くなって初めて知りました。それで、その創業者の想いを会社の名前に変えようと思い、「ヒューマングループ」に社名変更をしました。

米 倉： なるほど、そこで娘さんとしたら名前の意味を考えたんですね。

内海リ：はい、幼い頃から跡を継ぐと決めていたので大学を卒業してすぐヒューマングループに入社しました。実際、自動車学校業界は私が入社した時点で、斜陽になるということは分かっていたので、自動車学校だけやっていたら会社に未来はない。と思っていました。私自身、教習も貸切バスの運転もできません。自分にできることは何だろう？ヒューマングループの本質的な価値って何だろうとずっと考え続けました。

職業を通した社会貢献や、地域にこの会社があって良かったと思われたいというのが創業者の想いであり、現社長がやっている活動だと行き着きました。

青年会議所をきっかけに SDGs を知ったときに、創業者がやってたのはまさに SDGs だと気が付き、それを実践できる会社になろうと強く思いました。

地方の中小企業が限られたヒトモノカネを使って、会社を持続可能な状態にするためには「人」という資源を活かすことがとても重要です。同世代の経営者仲間もみんな「人」の問題で悩んでいます。先生も書かれていたように「金じゃなくて人」。そこで、一人ひとりのスタッフにとって、ヒューマンが一番自分が輝ける場所にするために、厳しい価格競争の中を戦いながらも働き方改革を進めています。

自動車学校はある意味、立地ビジネスなので、次に事業を展開するときは、エリアにとらわれない事業をしたいと心に決めていました。幸い、私が入社した時点で、デジタルには相当投資をされていたおかげで基礎がしっかりできていました。自社のデジタル化とマーケティングの実践をする中で、自社の仕組み自体を売り物として事業化したのが 3 年程前です。同業である自動車学校向けの商材として LINE 公式アカウントを活用したツール「DS コンシェルジュ」を作りました。

米 倉：面白いですね！まさに私もやりたいことですよ。元気塾は経営者として儲かる世界を見ろって話で、そのノウハウを社会に展開していくのが、ソーシャルイノベーション大学です。まさにおじいさんの代から全力でやってたということですね。我々もそういう社会が出てくるのがいいなと思って、両輪で 2 つの学校を走らせています。なんと日本では年間 4 万社の事業がなくなっているんです。そのうちの 2 万 4000 社は黒字だけど、後継者がいなくて廃業している。それがボディブローのように効いてきています。でも、実際にはリソースはあらゆるところにいっぱいあって、循環させれば蘇るはずなのです。

僕の教え子で、外資系の銀行ですごく稼いでいた学生が、今は事業を通じて社会課題を解決する団体の事務局長に転身したんです。しっかり稼ぐ力を身に付けて転身する。これが世界の大きなトレンドになっています。

本にも書きましたが、財閥は始めから金があったわけではなく、新しい知識を持っていた若い人材を採ってきて、自由にやらせたからうまくいったんです。知識の多重利用なんです。巨大なコングロマリットになったから後に「財閥」と言うことになったけど、本当は人の才能から始まっているんです。まさにヒューマングループですよ。ドイツのデジタル系の会社に行った教え子が結構前に「先生、デジタルはすごいですよ。お腹も減らないし、眠らない。そしてなにより賃上げを要求しないんです。」と。その時は面白く聞いていたけど、世界がインフレ基調になってきた中、デジタル化をやっていた企業にとっては、超有利な世界がきています。

しかし、これからデジタル化をやるのは、人件費も導入費用も高くなっています。なんでもできるものを作るのではなく、機能特化型がこれからすごくいいと思います。LINE を使って企業のお悩みを解決するのは、まさにそういうことですね。面白いですね。

内海力：弊社はすごいアナログの考え方で、自前で問題解決できるツールを完成させました。

米 倉：同業者である教習所をお客さんにするという発想がいいですね。まさに Difference。デジタルに投資していたというのは良かった！まだまだいっぱい使える材料がありますね。

内海リ：はい、失敗経験も踏まえて今まで弊社がやってきて、一番便利なものを提供する形でサービス提供しています。

米 倉：教習所だけでなく学校でも使えるかもね。DX がなかなか進んでいないんですよ。

内海力：コロナ禍でオンライン、オンデマンドが当たり前になりましたがその前から取り組んでいたのが、事業をさっと立ち上げることができました。ただやっぱり元気塾は顔をあわせて、アナログじゃないとダメですよ。



- 米倉： 僕たちもコロナ禍にこれはチャンスだと、青森、仙台、東京、名古屋、広島と5校でスクールを始めました。後から福岡と大阪。コロナ禍をどう受け取るか、大変と思うか、チャンスにしようと思うかですよね。これまでは東京ばかりでしたが、講師が各地に行くスタイルをとりました。ヒエラルキーではなく、水平にしました。マーケットは大きく考えないといけません。
一方で、暗黙知も大切だから、元氣塾はリアルを大事にしています。
- 内海力： はい。自動車学校は送迎バスが走るエリア、貸切バスもエリアが決められています。ただ、今第3のビジネスは本当に世界中どこにでも仕事ができるのが面白いですね。
- 米倉： 結局は知恵の勝負ですよ。それと、どれぐらい仲間を増やしていけるか。「地域にこの会社があって良かった」と思われること。Win-Winにしないとだめです。アフリカのことわざで「速く行きたいなら一人で行け、遠くまで行きたいならみんなで行け」というのがあります。会社も一人でやっていくのは難しくなっています。今は地方と地方が繋がれるから面白い。
- 内海力： もうひとつキーワードにしているのが、自己肯定感です。どのようにしたら一人ひとりの自己肯定感があがるかな、と考えています。ハウステンボスの創業者の神近さんから教えていただいた「人の長所と付き合いと、その人のことが好きになる。短所と付き合いと嫌いになる。」からヒントを得て、ストレンクスファインダーを活用したコーチングを取り入れました。みんな違って、みんないい。リスペクトしあう社風を目指しています。経営者の悩みも解決できると確信して、アナログのコーチングとDX支援を両輪で事業化して、全国の中小企業相手の事業を展開していこうと考えています。自分の失敗を全部コンテンツに変えています。
- 米倉： 失敗したら恥ずかしいけど、恥をかいて死んだ人はいない。統計によると、13歳から29歳で、「自分は社会に役に立っていると思うか、自分に生きる価値があるのか」に日本ではわずか45%がYESと回答しました。ところが同じ質問にアメリカは82%、韓国が70%。どうしてかということ、自己肯定感が低いのは早い段階で足切りしちゃうからです。
歌がうまい、足がはやい、みんな色々な能力を持っているのに学力だけで競争させるから、そこでこぼれた後はもう終わりになってしまう。そういう教育だから自己肯定感が低くなる。
でも、本当は知の窓はたくさんあるんです。だから得意なところに注目する、というのはすごく大切です。
- 内海力： 今はAIやデジタルの進化がすごくて、ある意味明治時代みたいな劇的な変化が起きていると感じています。さらにエリアや言語の壁も関係なくチャンスがある時代なので、ついていくのは大変ですが、変化を楽しんでいきたいと思います。後はSDGsを勉強したからこそ、持続可能な社会をどのようにして実現していくかが、私の課題だと思います。
- 米倉： 本当ですね。SDGsは流行り言葉のように言われているけれど、これは大きな流れですよ。川下から上がっていくのは人の3倍5倍の努力がいる。川上から川下を目指すのは半分の力でいけます。流れはそこです。地球環境を考えずに、人間のウェルビーイングが成り立つわけがない。そこにどのようなオポチュニティーがあるのか、それに対しては人々も対価を払いますよ。
- 内海力： 今日はありがとうございました。今日は課外授業を受けた気分です。塾で、心も頭も刺激を受けました。今後も引き続きご指導ください。
- 米倉： 僕の座右の銘の一つは「転んだやつを笑わない」「来るもの拒まず、去る者は追う」ですから、いつでも拠り所としてください。

米倉誠一郎様プロフィール

一橋大学 名誉教授 / 法政大学大学院 イノベーション・マネジメント研究科 教授
1953年東京生まれ、一橋大学社会学部および経済学部卒業、同大学大学院社会学研究科修士課程修了、ハーバード大学 Ph.D(歴史学)。ソーシャル・イノベーション・スクール(CR-SIS)学長、世界元氣塾 塾長、『一橋ビジネスレビュー』編集委員長

著書：『イノベーターたちの日本史』、『創発的破壊 未来をつくるイノベーション』その他多数



建物に込めたヒューマニティーへの想い

創立 70 周年記念号ヒューマントーク第二弾は、ヒューマングループの社屋と今年完成したヒューマニティーパークの設計・建設に携わられた福永博建築研究所 所長 福永 博様と福永 晶子様にご登場いただきました。

内海力： 先生とは 37 年前に出会って、社屋を作っていただいた時からのご縁です。今回、私どもがヒューマニティーパークの土地を手に入れて、どんなものを建てていったらいいだろうかということで、想いだけお伝えするところから始まりました。様々な案がある中で私どもの想いを酌んでいただき、ヒューマングループらしい建物を建てていただきました。弊社の企業価値を高める素晴らしい出来上がりでも喜んでいきます。



福 永： 最初は雲を掴むようなお話でしたね。しかし、こちらには 30 数年間通っていて、皆さんのお人柄もわかっていて、信頼関係も築けているので、それに応えようと思いました。社長と専務の想いを理解し、どう表現するのが私たちの役目でした。

内海力： 今回のヒューマニティーパークの建設は専務を中心にしながらも、やはり私自身がワクワクするプロジェクトにしたいという思いが強かったです。予定外だったのは、先生が現地を見に来られた時に「社屋が相当傷んでいるから、これをやり直した方がいい」と言われたことです。見積もりを見て、「またお金を使うのか！」と思いました。しかし社屋の補修を終え、全ての工事が完成したときに、先生にはこの景色が見えていたのだと納得しました。

福 永： 社屋を建てた時は、先代社長からの予算の範囲で削れるものは削りながら、コンクリートの打ちっぱなしで建物を建てました。その素地に今回は、必要な補修をうまく足していくことで、次の時代も 30 年 40 年と安定するので、このタイミングだと思いました。

内海力： 先生のアドバイスに従ったほうがいいのは、頭ではわかっていました。しかし、コロナの影響で大変な時期でもあったので、思い切った意思決定でした。しかし、おかげで社屋の価値もすくすく上がったと感じます。最近では、「最近建てられたんですか？」と聞かれるようになりました。

福 永： 建物を長持ちさせるための化粧直しですね。

内海力： 以前は国道から自動車学校が見えませんでした。前の土地を一つ一つ手に入れて、今はこのエリアが一体となり、国道からヒューマングループのマークが見えるのがとても嬉しく、スタッフも喜んでいきます。



2月に実施したヒューマニティーパーク地鎮祭

福 永： 社長のお人柄をイメージしながら作りました。鉄筋コンクリートで作ると、長持ちすると誤解されていますが、本当は木のほうが長く持ちます。しかし、コストは鉄筋コンクリートのほうが倍くらいかかります。木造で柱もほとんどなく、がらんどろでしておくことで、時代に合わせて、自由にアレンジすることができます。

内海力： ありがとうございます。二階の森白汀もとても暖かい空間に仕上がりました。森白汀の暢邦社長はどうですか？完成した感想は？

内海ノ： はい、まず私自身が快適に気持ちよく仕事できています。そしてスタッフにもお客様にも喜んでいただいています。

福 永： 35 年前にとった特許を組み直して、材料やコストも最適化させて今回使いました。

内海力：先生には、1回目が社屋、次に私の自宅、そして今回はヒューマンティーパークを建てていただきました。先生のアドバイスに従えば間違いなくいいものができると思いつつも、最後はお金の問題が出てきます。そこも含めて、限られた予算でこれだけのものを作っていただき、企業価値を上げていただいて、すごく嬉しく思っています。ではここで、3代目である専務の感想をお願いします。

内海リ：幼い頃、この社屋が完成途中の段階で妹と一緒に遊んでいた記憶があります。私にとっては、建物を建てる＝福永先生です。改めて今回、開発に着手してみて、難しさを思い知りました。普通だったら0からこういう会社で私達はこんな人間でこんな未来にしたいと伝えなくてはいけないところを、福永先生達は、私たち以上に先を見越して、「こういう未来がいいよ」とアドバイスをしてくださりました。私達の想いを理解して、一緒に建ててくださる先生方がいらっしゃるありがたさを痛感しました。今回、メインで担当していただいた晶子さんは、私が子供の時から「お姉ちゃん」と慕っていたので全幅の信頼関係のもと、取り組むことができたのは本当にありがたかったです。私はこの作品を沢山の方に見てもらうためにどうしたらいいかを考えることに専念できました。

内海力：私はずっと佐世保で商売をしながら、生意気にも海外にばかり行って色々なものを見てきましたが、60才になってから地元である早岐田子の浦を明るい空間にしたいという想が強くなりました。大きなことではなく、足を良くすることが、私の中で大きなウエイトを占めてきました。完成してみて、まさしくこれだなと感じました。

福永ア：私はこちらの自動車学校で免許を取ってからの付き合いですね。内海さんの人柄は通っていた時からお世話にもなっていてすごく良い方達というのはもうよく分かっていたので、しっかりしなきゃって思っていて取り組みました。植栽の方はいいお庭もできて、学生さんが歩いて気持ちいい空間が表現できたと思います。

内海リ：通っている方が、ここが明るくなって良かったねって言いながら歩かれていたとスタッフの日報に書いてありました。とっても嬉しいことです。

内海力：この社屋が完成して、夜にアプローチをライトアップしたのを副社長と一緒に見た時、涙が出るぐらいに嬉しかったのを覚えています。今回は晶子さんにお任せして、ヒューマンティーパークのライトアップも影の写り方含め、素晴らしく仕上げてください、本当に嬉しかったです。

福永：そう言っていただくと、私たちも嬉しいです。私は特許を50程持っていますからそれを組み合わせ、植栽も含めて、空間を見極めてデザインしました。

内海力：ガーデン部分は特にこだわりまして、先生と一緒に福岡県の田主丸に植栽を見に行きました。持ってくる木を一本一本選んだ時は仕上がりが楽しみでした。

福永：植物も育てた人の人柄がでますからね。木を見て、直感で選びました。実際にオーナーが現地に行って選ぶことはあまりないですけどね。

内海力：今回、植栽を担当していただいた植木屋さんが、先生と仕事を初めてしたのが私どもの自宅だったということで、様々なところで人のご縁を感じるプロジェクトでした。



工事中のヒューマンティーパーク



植栽について話す福永様と内海



ライトアップされたヒューマンティーパーク



**HUMAN
TALK - 40 -**

内海チ：季節はいつが一番おすすめですか？

福 永：それぞれの季節で楽しめるように考えて配置しましたが、やはりメインのしだれ桜ですね。白のシマサルスベリ。夏には沙羅の木、あとはミカンやレモン、キンカンの木もありますよ。

内海ノ：今まで福永先生のことを、私は直接は存じ上げなかったんですが、私の師匠であるアトリエ木下の木下社長との接点がありましたよね。私が修行時代にいた、福岡の浄水にある店舗を作られたということで非常に不思議な縁を感じました。森白汀の新店舗も先日、木下師匠に見てもらって、すごく褒めていただいたので、とても嬉しかったです。私はインテリアなどが好きでしたが、これまで自分自身が何かを建てるという機会がありませんでした。今回、このヒューマニティーパークに携われたことが非常にいい経験になったなど、もう本当に感謝しています。



1993年にタウン誌「99view」に掲載された対談記事



補修が完了した社屋



植栽工事の様子

内海力：先生が社屋を建てる時に、「ここはコンクリートの打ちっ放しがいい」と言われましたよね。打ちっ放してどんなものかと、神戸にある安藤忠雄さんが作った建物を見に行きました。そこで建物を見てイメージがはっきりして、社屋の建て替えを決意しました。ここに、30年前に地元のタウン誌に掲載した対談の原稿があるのですが、「人間の生活全般を建物で表現する」とあります。今回もその通りのものを作っていたいただいたような気がします。

内海リ：いつか晶子さんにおうちを建ててもらえるように稼ぎます。最初は予算や建物の大きさなどかなり心配をしながらもいい着地点を見つけていただき70周年という節目の年に完成することができました。本当に先生達のおかげです。

社長、副社長がどんと後ろで構えてくれている時に、完成することができたのも私たちにとっていい経験であり、いい勉強であったなと思います。社長はあつという間に建ったと言っていますが、私にとっては長い長い1年でした。本当にありがとうございました。

内海ノ：木造の建物が少なくなってきている中で、木造であれだけの吹き抜けを実現していただき本当に感謝をしています。あれが通常の2階だと大きな扉を使うと、圧迫感があって良さが出なかったと思います。全てがいい形で実現できたので、ずっと綺麗なまま残せるように植栽も含めてしっかり管理していきます。ありがとうございました。

福 永：100年持つように作っていますから、よろしく！

内海チ：建物で本当に自分が健康になるのか。それを実感させていただいたというか。社屋ができて、初めて夜に灯りがついた時、本当に涙が出ました。もう本当に嬉しかったです。そして、自宅を建ててもらった時、私の体があまり強くなかったのですが、「四季を感じる家を作ろう」と言われて、「そんなのできるのかな？」とっていました。しかし、まさに今でも家にずっと居たいと思うくらいすごく良かったです。人の人生の中にある建物にこんなに携われるって、素晴らしい仕事をされているなど改めて感じます。



内海力：今日は参加者の方に色々な想いを語っていただいて、なんか幸せだなっていうのをすごく感じましたし、ありがたいなと思いました。またこれからも長い付き合いになると思いますので、どうかヒューマングループ、ヒューマンファミリーをよろしくをお願いします。

福永ア：地鎮祭のときにもお伝えしましたが、うちのお客は土地をどんどん買い足して、うまくいってる人が多いから、やっぱりその通り。ここの建物を建てててすごくここの雰囲気良かったと思っています。さらに活性するようになればいいなと思っていますので、よろしくをお願いします。

福永：物に負けずに、発展させてもらうのが一番良いと思いますので、頑張ってください。



福永 博様プロフィール

福永博建築研究所 所長。歴史や文化、伝統から学び、理解したものを継承しながら社会や地域に必要なことが何かを考え、その上で、住む人、使う人の立場に立った「建築と街づくり」を実践している。

主な業務実績：シャトレけやき通り・赤坂（第一回都市景観賞受賞）、西大谷団地（第七回福岡県建築住宅文化賞大賞）、ガーデンヒルズ浄水（福岡市緑の街づくり協議会プライベートグリーン設計賞）他多数



福永 晶子様プロフィール

東和大学工学部建築学専攻 住居デザインコース卒業。1997年 福永博建築研究所入社。個人住宅や店舗などを、それぞれの住み手のセンスやライフスタイルにフィットするものにするため、クライアントとの「対話」を大切に設計を実践している。

主な業務実績：大井川別荘、アトリエ大濠、那珂川の家、ギャラリーのある家、大池の家、メゾン・ド・ヨシダ、bar 永田、そば幸光の森店 他多数

※文中 福永：福永博建築研究所 所長 福永 博様 福永ア：福永 晶子様
内海力：ヒューマングループ 代表取締役社長 内海 和憲 内海チ：ヒューマングループ 取締役副社長 内海千恵子
内海リ：ヒューマングループ 専務取締役 内海梨恵子 内海ノ：森白汀 代表取締役 内海 暢邦

福永様との
過去の対談記事は
note をチェック ▶



今月のヒューマンポエム 青い窓

小さくなった服

今までできていた服が

きれなくなった

わたしが大きくなったから

気に入っている服が小さくなって

ちよつと悲しい

でもわたしの小さくなった服を

小さなお友だちにゆずってあげた

小さなお友だちは

わたしの小さくなった服を

気に入ってくれた

すごくにあつていてかわいい

わたしの小さくなった服

着てくれてありがとう

わたしもううれしい

〈郡山市小学三年生の詩〉

「今まで大切に着てくれて、ありがとう。」小さくなった服より。

青い窓こどもアトリエ 橋本

k a z コラム 50

世界元気塾

ヒューマングループ 代表 内海 和憲

今年2月から、世界元気塾へ入塾し、敬愛する米倉誠一郎先生と楠木建先生の授業を受けるチャンスが巡ってきました。オンライン参加可とありましたが、毎回一番前の席でリアル出席。（昔は一番後ろで受けていましたが…）先生方の直球授業は、**学ぶことがこんなに楽しいことか**と**感じる時間**でした。

米倉先生からは「世界経済の動きや流れ、その中で日本の位置」について先生の書籍『イノベーターたちの日本史』の学びを材料に、幕末～明治時代の日本の起業家がいかに命をかけて日本の成長に貢献してきたかを学び、現状の危機感をひしひしと感じました。

楠木先生からは「戦略経営」として、「成長するためになにが必要か」についてを具体的に成長し続けている企業のトップの事例をあげて学びました。

一番印象に残っている言葉は、“BetterとDifference”ビジネスにおいて、更に良いもの（Better）を…ではなく他ではできないこと（Difference）を研究し、圧倒的差別化を図る大切さを学びました。20年前に気づきたかった…（笑）

課外授業もあり、これがまた素晴らしい企画！建築家の安藤忠雄さんと米倉先生のディスカッションは最高の授業でした！

香川県の直島と豊島訪問授業では、なぜ人口3千人の直島に年間70万人の観光客が訪れるのか？なぜ豊島を大手企業が研修場所を選ぶのか？訪れてみてその疑問を解くことができました。

毎回毎回授業の質の高さに圧倒され両先生の言葉に痺れ続けた半年間でした。

来年も両先生を追いかけていくつもりです…（笑）



米倉先生



楠木先生



課外授業で訪れた直島にて

WWW.HUMAN GROUP.CO.JP

ヒューマングループ ヒューマンスクール早岐 ヒューマンスクール松浦 リューコス
ヒューマンパス ヒューマントラベル アフブラック保険代理店

(代表) 〒859-3215 佐世保市早岐3丁目12-6 TEL.0956-38-2257 FAX.0956-38-0547
http://www.humangroup.co.jp/ e-mail:hg@humangroup.co.jp

Living With Joy!

ヒューマンニュースレター vol. 50

発行日 令和 5年 12月 20日
発行編集 ヒューマングループ企画室

Copyright © 2002-2023
Human Group Co.,Ltd All Rights Reserved.